

ターザンの逆襲 (1936)

TARZAN ESCAPES!

メディア 映画

ジャンル アドベンチャー

製作国 アメリカ

色彩 B&W

時間 89分

初公開日 不明

【解説】

「ターザンの復讐」から2年を経て作られた本作。前作のジェーンの衣裳がほぼビキニスタイルで露出しすぎと難癖がつき、残念ながらM・オサリヴァンは肩から先と腿より下しか見せないが、まだボーイは登場せず、ターザンのみにその愛情を向け、母性を振り撒くジェーンはそれだけで大変艶っぽい。その彼女の従兄妹がアフリカの地に、変わり者の叔父の遺産（百万ポンドのうちの半分が昆虫学者に寄贈され、残りも危うい）を継いだジェーンのことを訪ねるのが、今回の物語の発端。狩猟家のフライ大尉と助手のローリンズ（マンディン）が同行。難攻不落と云われるミュティアの絶壁を目指し、土地の人間が“ジュジュ”と呼ぶターザンを捜す。大尉は自慢のジュラルミン製のオリ持参で、あわよくばターザンを捕らえて帰ろうという胸算用。従兄妹たちに説得され一旦ロンドンに戻るジェーンを、思い入れたっぷりのラブ・シーンの後見送ったターザンを、言葉巧みに捕らえようとした大尉は口から出任せにそれはジェーンの意志でもあると告げ、ターザンは、ならば、と自らオリに入る。そこを日頃飼い慣らした象たちが助けて“脱出”させるのが最大の見どころのはずなのだが、今一つ盛り上がりせず、大尉が自業自得となる所もとってつけたよう。それでも、まだ若々しいワイズミュラーとオサリヴァンの放つ健康なお色気に圧倒されっ放しの1時間半、まずは気楽なお楽しみ。

【クレジット】

監督	リチャード・ソープ	Richard Thorpe
脚本	シрил・ヒューム	Cyril Hume
撮影	レナード・スミス	Leonard Smith
出演	ジョニー・ワイズミュラー	Johnny Weissmuller
	モーリン・オサリヴァン	Maureen O'Sullivan
	ジョン・バックラー	John Buckler
	ベニタ・ヒューム	Benita Hume
	ウィリアム・ヘンリー	William Henry
	ハーバート・マンディン	Herbert Mundin
	E・E・クライヴ	E.E. Clive